

人体を可視化する「確かなオペのサポート」
～ダイコムデータ stl ファイル変換ソフトの実技トレーニング～

土井章男

1895年、ドイツ物理学者ヴィルヘルム・レントゲンのX線の発見により人体内部がX線写真によって見えるようになりました。現在はMRI、CTなどさまざまな方法が開発され、より見えるようになりましたが現状ではまだ不完全です。その最大の理由は、MRIやCTが2次元データで断層画像(スライスデータ)の集まりであるためです。よって、これらデータを3次元的に見えるソフトが必要になります。今回は、歯科領域でも応用可能なソフトウェアを用いてDICOM(ダイコム)データからstlファイルに変換する方法、日本人に多いアーチファクト(口腔内の金属等に反応しノイズが発生すること)の軽減、一部削除の方法、ソフトウェアの機能について実物サイズの模型作成により、「確かな手術サポート」の臨床事例を挙げながら解説します(ハンズオン付)。

- * コロナウイルス感染拡大防止目的から密集回避のため参加人数規定となりますが、ご了承ください。
- * 定員オーバーの場合は、オンラインによる公開を検討しております(聴講)。